寸御難澁とお見うけ申した。
歸りの電車は何時だつたか、元より時計なしでたしかならず、だが何でも丑君が六時前とか云ふたのをチラリと聞いた。
淡い灰色に暮れてゆく夕やみにキラ〳〵と光る星のやうな電燈にそふて、車は南に流るゝやう梅田へ着いたのは何時だつたか

スケツチ

東京　秋葉

日があたつたかと思ふとかげるいやな天氣だ、同行四人、曰くY君、曰くT君、曰くA君、曰く僕、但し僕と云ふ名ぢやない、僕だ、A君盛んにシャベリ散らす、談笑又談笑、ずん〳〵歩くばかりだ、田端に來ると、パット開けた田野、筑波はかすかだ、花火が上る、麥は黄ばむてゐる、長閑かな、のむびりとした、いつ見ても好いあきない景色だ。歩きつかれて三脚をすへたのは、それから一時間ゆつくりすぎて後だつた、今まで雲雀のやうにさへずつた四人も、散兵線を張つたようになつてスケツチを始めた。空がドンヨリしてきた、變化のないつまらないのを一ツやつた。遠くに一帶の森、それから屋根のつゞき、麥畑が廣がつて近景は茄子の花が眞さかりだ。Y君印象派だつて、無暗に赤、黄、青をベタ〳〵ぬりつけてゐる。
一枚やつつけて、つまらなさそうにバタ〳〵箱にしまひ込む。まだ早やいからテニスをやらうつてポプラ倶樂部に行く、誰れもゐない、すぐ倉田先生がお出になる、Y君の下手には驚くばかり、第一ラツケットに球があたれば上の部、少しつかれた頃中川先生がお出になる、O君S君四人ばかりドヤ〳〵來る、吉田先生も藤井先生もお出になる、夢中になつてやつてゐるうちに球が見えなくなつたので止した。しばらくやらないでゐたので腕や足が痛む、腹がへる、上野公園に來た時は歩くのもいやになつた。

失敗記

大阪　洗帆生

旅に持物(モチモノ)が多かつたので、三脚を持參しなかつた、處が翌日寫生に行つた、暑いので神社の森の中へ入つて神前の銀杏の木を寫さうと場所は定まつたが土の上へどつかりは困るしと云つて別に何ぞとそこらを見ると幸ひ宮の軒下に瓦が四五枚あるのでそれを、丁度よい場所へ持つて來て腰をかけて始めた。處が半にして足やら腰の邊がイヤにムヅ〳〵するので見ると、小さな蟻の奴がゾロ〳〵這つて居る、吃驚して立ち瓦を一枚上げて見ると下には幾萬と云ふ蟻軍が地震とても問違へたか玉子を啣て宿替の最中、之には閉口だ、切株のある處は日がさして居るし、手水鉢の方では位置がいかん、百計盡きてスケツチ箱を土の上へ置き自分は吉田先生の眞似をしてやつと畫までに書上たが隨分苦しかつた、立上つても脚氣でしびれた足のやう、歸つて見ると筆洗の中で四五匹蟻の奴が土左衞門になつて居る、これは筆